

氏名	鈴木 真奈美	助成金額	30万円
所属など	明治大学大学院		
助成のテーマ	日米共同の最初の原子力輸出事例である台湾第四原発に関する社会学的研究		

## 【調査研究・研修の概要】

- ・日本政府は2005年以降、原子力輸出の実現に向けた取組みを強化している。原子力輸出が国の原子力計画に組み入れられたのは1982年である。以来、官民一体となって原子力産業の海外進出を目指してきた。福島原発事故を受けて輸出計画は一時足踏みしたものの、今日では再びその推進に拍車がかけている。
- ・この研究は、原子力の輸出入を国際関係論の視点から構造的に分析し、その上で、国家間で合意された輸出入計画に対し、市民社会、とくに輸入側の市民社会がどのように反応し、それが当該原発の政策決定過程にいかなる影響を及ぼしたかを、台湾の第四原発輸入・建設計画を事例に考察するものである。

## 【調査研究・研修の経過】

- ・2014年6月初めに訪台し、第四原発に関する近況を取材するとともに、翌年に台湾で実施する調査研究の準備をした。
- ・2015年1月から3月にかけて台湾に滞在し、資料収集、関係者聴取などを実施した（旧暦の春節休み中に一時帰国）。この期間、台湾中央研究院社会学研究所訪問研究学員として、同研究所を拠点に調査研究を進めた。
- ・2014年6月の訪台の成果を、『世界』2014年9月号（岩波書店）に寄稿した。
- ・上記6月の訪台で取材した内容を含め、過去に実施した台湾調査・研究の成果の一部を、単著『日本はなぜ原発を輸出するのか』（平凡社新書、2014年）の中で言及した。

## 【今後の展望など】

- ・2015年7月に開催される日本平和学会春期研究大会自由論題部会「日本の原発輸出計画と輸入側社会への影響——アジアの事例を中心に」の報告者として、インドネシア、ベトナムへの原発輸出問題に取り組んでいる研究者とともに、台湾への輸出事例について発表する。
- ・米国公文書館にて原子力をめぐる米台関係について公開されている外交文書を入手する。
- ・台湾を再訪し、台湾・日本・米国で収集した資料、聴取した内容について、公文書等での確認、関係者への再聴取などの作業を進める。
- ・今回の助成研究調査は、第四原発輸入・建設計画に関する数年計画の研究の一環である。したがって、まだ調査・研究の途上にあり、収集資料や聴取した内容について確認・分析が不十分なところがある。それらを明らかにした上で、最終的に論文や著作として発表する予定である。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	2014年6月分	79	0	0	79
旅費・滞在費	2015年1～3月分	227	227	0	0
国内交通費	日本国内及び台湾国内での交通費	36	32	0	4
資料費	コピー、書籍	32	32	0	0
協力者謝礼	通訳・テープ起こし等	68	0	0	68
通信費・郵送料等	台湾用レンタル携帯、国際郵便、宅配便等	15	8	0	6
雑費		57	0	0	57
合 計		515	300	0	215

## 参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・鈴木真奈美「立ち往生する台湾第4原発——民意は「反核」「非核」から「廃核」へ」 『世界』2014年9月号